

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	景気の基調としては、消費総合指数や消費者態度指数は足踏み状態にあり、個人消費が持ち直す動きは鈍い。一方、円安により自動車など輸出型製造業を中心に大企業の業績は改善している。2015年秋を見据えた場合、これが次期春季労使交渉等を通じ、賃金や雇用に波及していくか、国内投資を呼び込み中小企業に波及していくかが鍵となると考える。 考慮すべきリスクは、地域間経済格差の拡大。急激な円安は、小売や飲食など生活関連サービス産業を産業・雇用基盤とする地方経済に影響を及ぼす。エネルギー価格は、資源価格が下落し円安を相殺しているが、今後上昇に転じる可能性もある。農業を含め産業構造改革を加速することが必要である。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地方創生・地域活性化には、地域経済の7割を占めるサービス産業の生産性向上が必須である。サービス産業生産性協議会の活動を通じ、ベストプラクティスの収集・分析など、ツールやコンテンツ開発は進んでいるが、それを地域で展開していく機能(受け皿)が脆弱である。特に、問題となるのは、地方行政さらには商工会や観光協会、医師会、農協など民間レベルでの縦割り。これが異業種間の連携やベストプラクティスの交換を阻害している。この構造を打破するために「地域版まち・ひと・しごと創生本部」を自治体レベルで設置することが必要と考える。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	米国FRBによる量的緩和終了と日銀の追加的な金融緩和により、円安が急速に進行した。輸出型産業にせよ内需型産業にせよ長期的視点で企業経営を考えた場合、問題となるのは急激な為替相場の変化である。企業業績を見通すことが難しくなり、設備投資や雇用などへも悪い意味での影響を及ぼす可能性がある。